

この家に平和があるように

ルカ 10 : 1 - 12、16 - 20



司祭 ヨハネ 井田 泉

2022年7月3日

聖霊降臨後第4主日

上野聖ヨハネ教会にて

「その後、主はほかに七十二人を任命し、御自分が行くつものすべての町や村に二人ずつ先に遣わされた。」ルカ 10:1

今日の福音書はルカ第 10 章、イエスによる 72 人の弟子の派遣の話です。その一つ前の第 9 章の始めは、イエスが 12 人の弟子たちを派遣された話でした。1 章進む間に、派遣される弟子の数は 6 倍に増えました。これは、イエスとともに働く者が急速に増えていることを示しているように思えます。弟子が増え、成長していくのをきっとイエスさまは喜んでおられたでしょう。

けれどもイエスは急いでおられたに違いありません。イエスはすでに弟子たちに対して、ご自分の苦難と死を予告しておられました（ルカ 9:22）。時間には限りがあるのです。イエスを慕い、信じる人びとの群れが増えていく一方で、イエスを憎み、その活動を妨害し、それどころか捕らえて命を奪おうとする動きが次第に強まっていました。

そうした中、残された限りある時間のうちに、イエスは弟子たちをさらに教育し成長させなければなりませんでした。そのためにイエスはどれほど祈り、力を尽くされたことでしょうか。

ところで今日は特に、イエスが 72 人を派遣するにあたって言われた一つの言葉に心をとめましょう。

「どこかの家に入ったら、まず、『この家に平和があるように』と言いなさい。」ルカ 10:5

その家は穏やかかもしれないし、逆に悩みや葛藤を抱えているかもしれません。どの家もどの人も、平和を必要としています。

「この家に平和があるように」

これは単なる挨拶や決まり文句ではありません。ここにはイエスの願い、イエスの祈りが込められています。

「この家に平和があるように」

この言葉とともに主イエスが働いてくださる。そうであれば、そこに葛藤や悲しみがあっても、主の平和がそれを包みます。そこに神の国がそっと、しかし確実に来ているのです。

一つの経験を思い出します。もう 10 年以上も前、ある方の葬儀を行った時のことです。

ある信徒の方が長く病院におられたのですが、亡くなったとの知らせを受けました。急いで行ったところが、ご家族はまだだれも到着されておらず、わたしは息を引き取られて間もない方と一室で二人だけでしばらく時間を過ごすことになりました。

「この方に平安がありますように」「ここに平和がありますように」と祈りました

やがてお嬢さんが到着されました。一緒にお祈りをし、打合せをし、ご遺体を教会に迎えました。通夜の祈り、葬送式、火葬の祈りと続き、そして収骨に立ち会います。教会に戻って帰

宅後の祈りで一連の葬儀が終わりました。この間、三日か四日でした。

一連のことが終わったとき、そのお嬢さんがわたしにこう言われました。「わたしが救われました」と。

その方は信者ではありませんでした。ご自分から言われたのは、長くそのお母さんとは精神的に葛藤があったのが、この葬儀をとおして、母と和解できた。気持ちが安らかになった、と。そのように漏らされたのでとても驚きました。それ以来ずっとその方は、毎年のクリスマスに欠かさずに教会にお花を贈ってくださいました。

「ここに平和があるように」という祈りが事実となった一つの経験です。

72人の弟子たちが帰って来て、イエスに報告しました。

「主よ、お名前を使うと、悪霊さえもわたしたちに屈服します。」ルカ 10:17

「この家に平和があるように」という弟子たちの祈りと働きが、顕著に実を結んだのです。

さて今日の話聞いて終わりにせず、わたしたちも実行しましょう。イエスがわたしたちにも言われます。

「まず、『この家に平和があるように』と言いなさい。」

教会に来たとき、「この教会に平和があるように。」家に帰ったとき、「この家に平和があるように。」バス停で、電車で、店で、「ここに平和があるように」と心の中で祈ります。

『ここに平和があるように』と願って、祈って生きていきなさい。その祈りとともにわたしがいるから」とイエスが言われます。

ここでイエスは二つのことを言って、わたしたちを励まされます。

1つ目は、平和があるようにと願い祈って、願う結果が得られなくても、気落ちすることはない。イエスはこう言われました。

「平和の子がそこにいるなら、あなたがたの願う平和はその人にとどまる。もし、いなければ、その平和はあなたがたに戻ってくる。」ルカ 10:6

だから気落ちしてはいけない。イエスに言われたとおりに祈った平和を求める祈りは、決して無駄にはならない。そうイエスはわたしたちを励まされるのです。

2つ目は、たとえわたしたちが失敗し、あるいは間違いを犯したとしても、イエスが責任を引き受けてくださる、ということです。10章1節にこう言われていました。

「主はほかに七十二人を任命し、御自分が行くつもりのすべ

ての町や村に二人ずつ先に遣わされた。」ルカ 10:1

イエスは、わたしたちが歩んだその後には必ず来てくださるのです。わたしたちの失敗も間違いも含めて、責任を引き受けてくださる。「あなたがたの責任は、わたしが引き受ける。」

かつて復活のイエスは、弟子たちが語り合ったり戸惑ったりしているところに現れて、弟子たちに言われました。

「あなたがたに平和があるように」ルカ 24:36

イエスはわたしたちのところに来て言われます。

「あなたがたに平和があるように」と。

祈ります。

主よ、わたしたちが行く先々で平和を願い求め、祈り求めて生きていくようにしてください。わたしたちが疲れ、あるいは行き詰まるとき、あなたがわたしたちの前に立って、「あなたがたに平和があるように」と言ってわたしたちを慰め励ましてください。わたしたちのために平和を祈ってくださる主を賛美します。アーメン